

・平成14年5月15日・

於：国土交通省特別會議室

交通政策審議會觀光分科会速記録

目 次

1 . 開 会	1
1 . 定足数確認	1
1 . 配付資料確認	1
1 . 委員紹介	2
1 . 国土交通省あいさつ	2
1 . 観光白書について	4
1 . あいさつ	35
1 . 閉 会	35

開 会

櫻井企画調査室長 お時間ちょっと前でございますが、おくれられるという御連絡のございました石月委員を除きまして、委員の方々、皆さんおそろいでございます。副大臣もおそろいでございますので、ただいまから交通政策審議会観光分科会を開催させていただきます。

本日は委員の先生方、大変お忙しい中を本交通政策審議会観光分科会に御出席いただきまして、ありがとうございます。

私、きょうの司会を務めさせていただきます国土交通省の企画調査室長の櫻井と申します。よろしくお願ひ申し上げます。

定足数確認

櫻井企画調査室長 まず初めに、議事開始に当たりまして定足数についてでございますが、交通政策審議会令第8条によりますと、委員の過半数をもって会議の定足数となっております。本日は二井委員、西村委員が欠席となっており、猪口委員につきましては交通政策審議会委員を5月10日付で辞任されております。したがって、委員総数8名のうち6名の委員が御出席でございますので、本分科会は成立していることを御報告申し上げます。

配付資料確認

櫻井企画調査室長 次に、配付資料について確認をさせていただきます。

お手元の机の上に、分科会の配席図及び進行次第、分科会の委員の方の御名簿、分科会の運営規則、ここまで紙でございますが、その後、若干厚い冊子で平成13年度観光白書要旨(案)、分厚い冊子で平成13年度観光の状況に関する年次報告(案)、及び平成14年度において講じようとする観光政策(案)といったものを御用意しております。

さらに、皆様のお手元の左側には、国際観光振興会がワールドカップ向けに作成しております日本の10都市の会場案内の韓国語版のパンフレット及びCD-ROM、さらには地図、そしてワールドカップ専用ホームページのサイトの簡単なカードといったものを御用意しております。

以上でございます。

委員紹介

櫻井企画調査室長 続きまして、委員の方々の任命関係について御報告をさせていただきます。

阿比留委員、石月委員、西村委員、向山委員におかれましては、昨年引き続きまして、また、今回新たに二井委員が交通政策審議会臨時委員に任命されました。よろしく願い申し上げます。

それでは、本日御出席の委員の方々を御紹介申し上げます。

まず中央、室伏稔分科会長でいらっしゃいます。

室伏会長 室伏稔でございます。分科会会長を仰せつかっております。どうぞよろしくお願いいたします。

櫻井企画調査室長 続きまして、分科会長の左手奥の方から、青山佳世委員でございます。

続きまして、堤義明委員でございます。

分科会長右手、阿比留雄委員でございます。

ひとつおきまして、向山秀昭委員でございます。

石月委員は若干おくれられるということでございます。

国土交通省あいさつ

櫻井企画調査室長 それでは室伏会長、以後の議事の進行方、よろしく願い申し上げます。

室伏会長 それでは議事を進めてまいりたいと存じます。

まず初めに、国土交通省からごあいさつをいただきたいと思っております。国土交通省からは

佐藤静雄副大臣がお見えでございますので、ごあいさつをいただきたいと思います。佐藤副大臣、よろしく願いいたします。

佐藤国土交通副大臣 御紹介をいただきました副大臣の佐藤静雄です。一言ごあいさつをさせていただきます。

きょうはお忙しい中を、分科会委員の皆さん、御出席を賜りましてありがとうございます。きょうは平成14年度において講じようとする観光政策について御審議をいただくわけですが、どうぞひとつ積極的な御意見をお聞かせいただきたいと思っています。

この間、国会で小泉総理が観光政策について力を入れていこうと。歴代の総理大臣で観光政策を高らかにうたったのは小泉さんが初めてでありまして、我々といたしましても観光というものに取り組み、新しい観光というものをつくり上げようというときに、非常に大きな力になるとと思っています。

観光というのは、それぞれの地域づくりが中心になると思います。今まで観光は、どうしても温泉観光ですとか、それぞれの地域の自然を見るだとか、それで終わっていたような気がいたしますが、我が省も統合いたしましたわけですから、統合のメリットを生かした観光というものを考えていこう。もっと地域づくり、町づくり、そしてそこに住む人たちが誇りを持って住める地域づくり、多くの方々に見に来ていただく観光というものをつくり上げていこうとしています。

外国の方々も日本らしさ、日本のアイデンティティを魅力に感じて来ていただく観光をつくり上げていこう。そして日本のよさというものを、世界じゅうの方々に認識していただく。そのためには、我々日本人が誇りを持てる国づくり、地域づくりを進めなければならないわけですから、そういう意味で観光というものを新しい視点からつくり上げていこう、今そういうことを考えながら、私たちも観光政策を進めようと思っています。

特に最近の日本は、家庭崩壊が起き、学校がおかしくなり、子供たちが未来に希望を失っているような状態の中です。私たちはもう1回、子供たちが未来に対して希望の持てるような国づくりを進めていく必要があります。教育を変えていく必要があります。それを観光というものを通じて行える分野がたくさんあるような気がします。そういうものを含めて、新しい観光というものに私たちは思い切り取り組んでいきたいと思っています。

ちょうどことはワールドカップの年でもありますし、海外との交流が非常に多くなると思います。特に、北東アジアとの交流が多くなると思いますし、このときにアジアを代表する国として、しっかりとした観光政策に取り組んでまいりたいと思っています。

観光というものをしっかりと産業化して、そこに雇用が生まれ、そして日本の魅力ある産業として育てるように一層力を入れていきたいと思っておりますので、どうぞまた御指導いただきますようお願いを申し上げます。

きょうはそういう意味でひとつ、私どもが取り組もうとしていることに対しましていろいろと御審議をいただき、御意見をお聞かせいただけますように心よりお願い申し上げます。一言ごあいさつにかえさせていただきます。ありがとうございました。

室伏会長 どうもありがとうございました。

なお、本日の議事につきましては、本分科会運営規則第7条及び第8条によりまして、「議事録を作成し、速やかに公開する」こととなっておりますので、私にお任せいただきたいと存じます。

観光白書について

室伏会長 それでは次の議題に移らせていただきます。

観光基本法第5条第2項の規定に基づきまして「平成14年度において講じようとする観光政策」の案につきまして、国土交通大臣から本審議会に対しまして諮問がなされておりますので、国土交通省よりその内容について説明をしていただきたいと思います。

なお、あわせて13年度年次報告についても説明をお願いいたします。

櫻井企画調査室長 ありがとうございます。委員の皆様のお手元には、平成13年度観光白書要旨といったものがございます。このうち、特にトピックス及び現状につきましては、右手のモニターの方で御説明をさせていただきたいと思っております。なお、モニターと同じ内容をA4の横長でございますが、平成13年度観光白書（案）の概要として、皆様のお手元にお届けしてございます。

それでは、モニターを使いまして、白書（案）の概要について御説明させていただきます。

まず、日本人海外旅行者及び訪日外国人旅行者の推移です。上のグラフが日本から出かける海外旅行者数、下のグラフが日本にやって来る外国人旅行者数です。

まず上のグラフから申し上げますと、日本人海外旅行者数は、平成13年は1,621万6,000人です。これは昨年と比べまして9%減で、過去最大の減少です。これは昨年9月に起こりました米国同時多発テロの影響が考えられます。

他方、日本にいらっしゃる訪日外国人旅行者数ですが、平成13年は 477万 2,000人。昨年と比べまして 0.3%の微増です。テロの影響はありましたけれども、中国、韓国といったところからの旅行者数が堅実に伸びていることが幸しいたしまして、微増にとどまっています。

このグラフは、韓国、米国、台湾、中国、香港といった日本にいらっしゃる外国人旅行者の上位の動向ですが、まずグラフの一番上が韓国でございます。韓国は順調に伸びておりまして 113万人で、昨年に比べて 6.5%の増です。その下は台湾で、80万人です。台湾は経済の影響がありまして減っています。その次の米国も、同じようにテロの影響がありまして減っています。伸びていますのが、下から2つ目の中国です。平成13年度におきましては39万人で、昨年と比べて11.3%伸びています。香港も 7.8%増です。

このように、韓国、中国が伸びていることによりまして、テロの影響にもかかわらず、訪日外国人数は微増でとどまっています。

次に、韓国との関係ですが、韓国との間では昨年9月に日韓観光担当大臣協議を開催しまして、本年がワールドカップサッカー大会、あるいは日韓国民交流年に当たることをかんがみまして、日韓間の国民観光交流をふやそうということで「東アジア広域観光交流圏構想プラン」について、推進を合意しています。

この「東アジア広域観光交流圏構想」ですが、御案内のとおり、まず日本と韓国それぞれの両国間の行き来を倍増しようとするものです。現在、日本から韓国に来訪する日本人約 200万人を倍の 400万人にし、韓国から日本に来訪される人を 100万人から 200万人にしようとするものです。そして、さらに左下のグリーンですが、第三国から日韓来訪されるお客さんを共同で誘致して、現状の 600万人から 1,000万人にしようとするものです。

そのための具体的な施策としまして、右側の黄色い箱に掲げてありますが、共通レールパスの創設、航空路線網の拡充、プレクリアランスの導入、ビザなし渡航の実現等の施策を講じることにしています。

このうち、今回ワールドカップの共同開催に当たりましては、成田の平行滑走路が供用開始になったこともありまして、航空路線網が拡充していますし、大会期間中に限りまして、韓国のインチョン空港と成田空港の間でプレクリアランスシステムを導入ということで、それぞれのC I Qの担当官が相手国に出かけて出入国審査を行うといったことを導入しています。さらに同じ期間、5月15日から6月30日ですが、日本を訪れる韓国人に対しまして、ビザなしの渡航も実現をしています。

次に、中国との関係ですが、ことしは日中国交正常化30周年です。これを記念いたしまして、さきの5月9日に東京で日中友好文化観光交流式典ということで、中国から5,000人の訪日団をお招きしました式典を開催しています。

次に、日本人海外旅行者数ですが、今ごろんになっているグラフは、今回の同時多発テロ事件の影響と湾岸戦争の影響を比較したものです。上の方のグラフが湾岸戦争のときの状況でして、下が今回の同時多発テロです。グラフはすべて対前年同月比の推移です。ちょうど真ん中のところに前年比プライマイナスゼロがありますが、そこからの落ち込みを見ますと、今回の同時多発テロについては、湾岸戦争に比べて非常に落ち込みが大きいことが分かります。さらに回復ですが、同じようにV字の形で回復していくわけですが、その回復のテンポが非常に緩やかです。これは湾岸戦争に比べまして景気低迷しているということ、あるいは航空機を使ったテロといったことから、航空の利用に関する不安感があるということで、国民の海外旅行の手控えといったものが反映されていると分析しています。

航空機を利用した国民の旅行需要回復の取り組みとしまして、特に米国関係で申しますと、日本人の海外旅行先第1位ですが、昨年は対前年比18.5%と大きく減っています。特に、同時多発テロ以降の9月、12月では対前年比50%を超える落ち込みとなっています。

この日米間の需要を回復する取り組みが必要だということで、ことし2月、ブッシュ大統領が訪日された際、小泉首相との間で日米間の観光交流を促進しようという話がありました。そのための具体的な組織として、3月にニューヨークミッションといった官民の合同使節団をニューヨーク及びワシントンに派遣し、観光交流の拡大について議論をし、さらに3月9日にはビジットハワイということで1,000人を超える使節団をハワイへ送りました。

さらに、4月19日ですが、米国のエバンズ商務長官が訪日された際、扇国土交通大臣と観光交流の拡大について協議しまして、その成果について、日米両政府間の了解覚書ということで文書をまとめ、官邸で小泉首相、ベーカー駐日大使の立ち会いのもと署名をしています。それが右肩の写真でございます。

冒頭、副大臣のお話にもありましたが、小泉内閣総理大臣がことしの2月4日、今国会の施政方針演説で述べられた演説です。真ん中に黒く書いていますが、我が国の文化伝統や豊かな観光資源を全世界に紹介し、海外からの旅行者の増大と、これを通じた地域の活性化を図ってまいります。政府における取り組みとしましては、総理施政方針演説を受け

まして、副大臣会議で関係省庁の観光振興施策の連携について、現在取り組んでいます。

さらに民間サイドの動きとしましては、本日、堤会長が御出席ですが、昨年の11月16日に民間の観光関連産業の団体が集まりまして、社団法人日本ツーリズム産業団体連合会といったものが設立され、官民挙げた取り組みを進めているところです。

次に、ワールドカップサッカー大会を契機とした観光の振興ということで、後ほど実際のものを見ていただきますが、訪日促進ビデオといったものを作成いたしまして、日本企業の国際線の全路線すべて及び国内の8空港のロビーにおいて、今放映をしています。日本の自然、文化、食べるといったものの魅力を訴えるとともに、扇大臣が「日本へようこそ」と呼びかけるビデオです。

さらに、日韓間のワールドカップサッカー大会期間中の移動ですが、需要予測によりますと、片道で外国から日本に約33万人、特に韓国と日本の間では約16万人の移動がございます。このような移動を処理するために、先ほど申し上げました成田の暫定平行滑走路の供用開始といった形で航空輸送力の増強に努めるとともに、プレクリアランスの導入ということで、韓国から日本にいらっしゃる方の入国の円滑化を図るということを行っています。

さらに、ワールドカップサッカー大会中に来日した外国人旅行者に対しまして、特別の運賃割引制度を導入しています。非常に多種多様、広範囲にわたっています。例えば航空につきましては、国内の全路線どの区間でも6,300円で自由に乗ることができます。鉄道につきましては、2万2,000円を出せば5日間、全国のJR全線の普通車自由席を自由に乗り放題できるといったような切符を事業者の協力を得て導入することとしています。

さらに、訪日された外国人の方が複数通貨、つまりウォンと円の使用を円滑化するために、多機能ICカードプロジェクトを実証実験することとしています。これは世界初の試みです。1つのカードに円、ウォンといった電子マネーを投入いたしまして、このカードによりまして交通機関での利用とか、大会会場付近のいろいろな売店での購入ができるといった機能を備えたカードです。

さらに、訪日された外国人の方の言語トラブルを解消するために、電話回線を使いまして、三者通話方式によりますトラベルサポートシステムを実施します。これは、例えば地方の会場で言葉のトラブルが生じた場合、地方の会場ではなかなか対応できていないポルトガル語とかアラビア語といったような問題が生じたときに、その電話を国が設置する中央コールセンターに転送することによりまして、コールセンターに待機していますポルト

ガル、あるいはアラビア語の通訳が対応するという形です。

昨年の世界観光機関（WTO）の総会の話に戻りますが、昨年9月、WTOの歴史上でも初めて日本と韓国の2カ国共催、もちろん我が国にとって初めての総会でございますWTO総会が大阪で開会されました。世界から117カ国、このうち大臣級の参加国は61カ国でした。1,400名の内外の観光関係者が集まりまして、21世紀の観光について議論を行いました。その結果としまして、大阪ミレニアム宣言を発信しました。又、ちょうどこのWTO総会がアメリカのテロ事件の直後であったこともありまして、観光は平和の実現と世界の人々の相互理解を増進するといったような内容をうたっています。

次に、各国の政府、民間企業に対して遂行を要請する措置として、3点あります。1つ目は、中段でございますが、長時間の労働と短い休暇が観光の成長の障害になっているということと観光地における集中と混雑の原因となっているということを政府、民間は真剣に取り上げなさいということです。2つ目は、観光開発については、地域コミュニティのニーズ、自然・文化遺産の保護、訪問者の満足といった三者間のバランスを保つべく、持続可能な発展の原則に基づいて行われるべきということです。3つ目は、観光情報データベースのインフラ整備を推進することで以上の内容を大阪ミレニアム宣言としてまとめています。

テロで影響を受けたのは海外の旅行先だけではなく、国内でも、特に沖縄にしましては非常な影響を受けています。くしくも本年は沖縄復帰30周年ですが、昨年9月に起きたテロが沖縄にも大きな影響を与えました。この真ん中のグラフ、折れ線グラフが非常にガクッと下がっているところが10月ですが、10月は対前年比で19%、11月にはさらに落ち込みまして、対前年比で24%減といったような落ち込みがありました。このうち修学旅行につきましては、平成12年度実績の65%に相当する1万人が沖縄への修学旅行をキャンセルするといったような事情がありました。

沖縄はこのテロの関係で非常に影響を受けたわけですが、これに対しまして政府としましては、沖縄の需要を喚起するという事で、メディアを使った大々的なキャンペーンを実施するとともに、沖縄観光促進シンポジウムなどいろいろな会議を沖縄で開催しまして、需要の喚起に努めました。これを受けまして、今年に入って、沖縄への観光は回復をしています。

以上がトピックスです。

続きまして、本年度の平成13年度観光白書について御説明いたします。これは白書の13

ページ、はじめにというところで整理しています。

今回の観光白書の基本的視点として、4つの点を整理しています。

1つは、観光は生産、雇用への経済波及効果が大きい重要産業であるということで、観光というものを産業としてはっきり位置づけていることです。特に、国際的に見て観光産業は成長していますし、国内的に見ますと、製造拠点が海外に移転している中で、地域固有の資源を活用した観光は地域活性の非常に重要な柱として、地方自治体も関心を持っています。

この中であって、訪日外国人旅行者の増加というものは、もちろん国際相互のための双方向交流の実現という観点から重要なわけで、国際収支の改善という観点からも、これが重要だということです。特に、ことしはワールドカップ大会、日韓国民交流年、あるいは日中国交正常化30周年というような行事があります。積極的にこの時期をとらえまして、外国人旅行者の誘致をしようというのが2つ目の柱です。

3つ目は、魅力ある日本ということですが、地域の特色ある自然、文化、伝統という観光資源を見直し、個性ある魅力的な地域づくりを通じて、地域の活性化、美しい国づくりを重要な取り組みであると認識し、これを支援していくということです。そのためにどういう措置を講じ、また、平成14年度講じていくかといったことを記述しています。

他方、この地域づくりに関しては、いわゆる観光産業中心にとらわれない、幅広い地域住民の方々が参加主体となって、地元にある観光資源の活用と管理を行うことにより、誇りを持った地域づくりを通じて、持続発展可能な地域づくりを行っていくことが必要であるといったことも、この観光白書に書いています。

このような4つのものを中心に、今回の白書を整理していますが、まず最初の経済波及効果につきまして、資料を用意しています。

旅行の経済効果ということで、平成12年国土交通省が行った調査によると、まず旅行・観光で実際に支払われるお金の額は22.6兆円と推計しています。この22.6兆円が実際の売上高といった形で直接効果があるだけでなく、さらに原材料の購入とか、それぞれの産業に従事されている方の所得の増加、それがまた家計の消費支出の増加といった形につながりまして、この22.6兆円の観光総消費額が、生産波及効果で申しますと53.8兆円まで拡大をします。これは我が国の国内生産額の5.7%に匹敵する数字であり、非常に大きな経済波及効果を有すると推計しています。

このうち、直接の売上高の付加価値効果は11.2兆円、これは我が国のGDPの2.2%に

相当し、雇用創出効果で申し上げますと 193.7万人で、これは我が国の全雇用の 2.9%に相当する推計です。

この 2.2%、2.9%という数字ですが、これを国際的に比較したのが、次の観光産業の国際比較です。日本のGDPに占める比率で付加価値効果 2.2%というのは、同じような比較をやっている諸外国と比べまして、アメリカと並んで下です。雇用の関係で申し上げますと、日本の 2.9%はアメリカの 3.5%に比べて非常に少ないということで、国際的に見ても、まだまだ日本の観光産業の付加価値、あるいは雇用といったものは低数字にとどまっています。

その内容ですが、観光消費の内訳を見ますと、日本は国内観光消費が93.8%、外客による観光消費は 6.2%にすぎないという現状です。外国からのお客さんが少なく、そのために消費が少ないといった事情があるわけですが、これをさらに国際的な比較で申し上げますと、日本人海外旅行者の数は、世界で第4位です。世界に対して支払う金額も第10位です。一方、訪日外客は、数で申しますと世界で35位、支出ベースでも31位です。

では、この収入、支出のトータルの収支差ですが、日本は2001年度合計ですと 3.6兆円の赤字です。右側、主要国・地域の外国人旅行者受け入れ数及び国際旅行収支ですが、日本はドイツに次いで赤字第2位です。この赤字の内容は、ドイツが第1位ですが、ドイツは支出も多いが、収入も多くなっています。一方、日本は隣国と比べても、収入がけた違いに少ないといった事情があります。

こうした外国人旅行者の少なさを克服するための施策として、国際観光振興の施策を白書78ページから記述しています。

細かい内容を御説明する前に全体像を申し上げますと、今回の白書では大きく6つの柱で国際観光振興の施策を整理しています。

1つは、外国の方が日本に来ない原因の第1としては、日本が観光において魅力ある旅行先としてイメージがはっきりしていないために来ないということがあります。明確なイメージの確立ということで、副題として、「なじみにくい国」から「魅力あふれる国」へとといったことを記述していますが、このような日本の旅行先としての明確なイメージを確立するための宣伝、情報提供が必要であるとしています。

2つ目の柱としては、言葉の壁があります。ただ、この言葉の壁につきましては、いろいろと克服する施策があるわけですので、このような施策を通じまして、外国人の方々が日本に来て発見する、そして日本の地域の方々との交流を推進していく必要があるというこ

とです。

3つ目の柱としては、日本が旅行先として非常に高コストであるといったようなイメージがあるということです。ただ、中には探せば非常に安い商品もありますし、安い商品を提供しようとする努力もあります。このような努力をさらに推進するとともに、その情報を的確に提供することにより、気軽に旅行ができる国に変えていく必要があるということです。総論としまして3つの柱があります。

さらに地域別あるいは細かいことですが、冒頭申し上げた日中韓交流の促進、あるいは国際コンベンションを振興するといった施策を通じて、国際観光、日本を訪れる外国人旅行者を増加させていこうと考えています。

具体的内容について御説明をさせていただきたいと思います。

お手元の平成13年度観光白書要旨の9ページ以降に、国が講じています国際観光振興施策についての具体的なものの紹介があります。

まず(1)でございますが、「ものづくり」を中心とした工業国のイメージを是正し、我が国固有の自然、芸術、伝統文化といった魅力ある観光目的地のイメージの広報を実施する必要があります。そのためにはマーケティング戦略に基づいて、テレビスポット広告、新聞、雑誌広告、あるいはインターネットのホームページといったものを利用して海外発信を行っていく必要があります。

特に、今回のワールドカップサッカー関係では関係省庁が一体となって、それぞれが持っている文化観光情報の提供に努めています。さらに、省庁連携の取り組みの具体例として、昨年度ですが、政府広報として初めて訪日旅行促進のための海外特別番組をアメリカ、アジア・太平洋のテレビ番組で放映しています。

2段目、言葉の壁を越えた発見、交流の推進の(3)ですが、特に外国語の案内標識の整備に関しては、まず空港や駅においてガイドラインを作成いたしまして、外国語併記や外国人にもわかりやすい案内用図記号の使用といったものを事業者に働きかけています。

さらに(4)ですが、ワールドカップ関係で申し上げますと、日本を訪れる外国人の方に対して、日本の各観光地の細かい情報をボランティアの方々が提供できるように、ホームページでボランティアが情報提供する電子掲示板というものを開始しています。

10ページの3、高コスト観光の是正ですが、現在、観光関連業者はインターネットも活用して、外国人旅行者向けの国内旅行商品の提供といったもの、あるいは宿泊においても1泊2食ということではなく、泊食分離の取り組みといったような、外国人にとってわか

りやすい透明性のある料金体系を採用する動きも出ています。

ウェルカムカードを外国人旅行者が提示すれば、観光施設の入場料が20%程度割引になるといったような取り組みも拡大しています。このような情報については、インターネットできちっと外国人の方に情報提供するように努めています。

次に、12ページをお開きいただきたいと思います。国内観光振興の施策ですが、5つの柱で整理しました。

繰り返しですが、国内観光振興の施策の柱として、まず地域それぞれの豊かな自然、歴史、文化、伝統の相違に基づく地域の特徴を観光資源に生かすということで、自然解説とか、あるいは地域伝統芸能、そして地域のまちのたたずまいといったものを映画のロケに使うフィルムコミッションへの支援を行っています。

さらに、地域づくりですが、観光産業に偏らない地域のさまざまな関係者が参加した地域づくりの取り組み「地域の住民が住んでみたいまち＝観光客が訪れてみたいまち」という基本認識のもとに、地域を挙げた取り組みを支援するということがあります。特に、旧運輸省、旧建設省、旧国土庁が統合いたしました国土交通省におきましては、このような施策を講じていますし、この部分については引き続き講じていかなければならないと思っています。

3番目は、観光事業者の取り組みですが、旅行商品の多様化、低廉化といったものや、観光関係者の連携の拡大といったものについて記述しています。

最後、5番目ですが、国民の旅行を促進するための環境整備としまして、休暇取得の促進といったものも大きな施策の柱にしています。

先ほどの要旨の12ページに戻りまして、個別の施策について御説明申し上げます。

まず最初の観光資源の開発ですが、地域の自然を活用する自然ガイドツアーの造成といったものを支援しています。地域伝統芸能を活用したイベントの開催とか、映画、テレビの撮影のロケ地として誘致するフィルムコミッションの活動のためのフィルムコミッション連絡協議会の発足といったものも支援しています。

さらに、潜在的な観光資源を拾い上げるといった取り組みをモデル事業としてやっており、北海道の後志、石川県の能登で滞在型観光交流空間づくりモデル事業として、それぞれの地域の隠れた資源を開発し、どのようなテーマ、コンセプトで観光地、あるいは魅力ある地域として売り出せるか、訴えることができるかというものについて研究しています。

(2) 観光地の環境づくりですが、これは美しい国土、美しい地域をつくるという観点

から、景観づくり、まちなみ景観を、農村、漁村、あるいは水辺空間、道路景観について景観づくりを行うこと。さらには観光地における渋滞緩和のための交通マネジメント実証実験、これは地域の方々の自動車による移動についても制約を課すわけですが、訪れる方々と地域の住民の方々がどういうふうにすみわけることができるかということで、交通マネジメント実証実験を岐阜県の白川村、奈良県の飛鳥地域等で実施しています。

さらに、高齢者・障害者の方々が円滑な移動、観光ができるためのバリアフリー化といったものを推進しています。

13ページにつきましては、それぞれの地域の特色がある商店街とかまちなみを活用した観光地の地域づくり、あるいは地域の自然、文化遺産を活用した地域づくりの取り組みの紹介があります。また、そのために講じている施策についても御紹介をしています。

14ページは情報提供でして、このような情報提供につきましては、道路のわきにある道の駅の整備を進めていまして、そこで情報提供を行っています。

旅行の多様化、低廉化ということでは、先ほど申し上げましたいろいろな取り組み、例えば交通機関においては、ワンコインバスとか、高速道路料金のスーパー割引といった形での低廉化の努力をしています。

観光関係者の連携の拡大としては、先ほど御紹介しました、社団法人日本ツーリズム産業団体連合会が設立されて、訪日外客数の大幅増加、経済波及効果の測定、長期休暇の実現といったような取り組みをしています。

14ページ、北海道の観光振興施策の推進でございますが、そちらに御用意してあります絵は、先ほど申し上げました滞在型観光交流空間モデル事業、北海道の後志で行いましたもののそれぞれの地域ごとに、例えばフルーツアグリーツーリズムエリアの形成とか、マリントーリズムエリアの形成とか、それぞれの地域の特色に合いました観光資源を活用して、どのような観光ができるかといったものについてのコンセプトづくりの取り組みを御紹介しています。

次に、ただいま講じている施策に基づきまして、平成14年度において講じようとする観光施策について御説明申し上げます。ページで申し上げますと17ページです。

まず大きな柱の1番目として、外国人旅行者訪日促進のための戦略的な取り組みということで、施策を講じようとしています。特に、ことしはワールドカップサッカー大会がありまして、ありとあらゆる実証実験を加えながら、外国人の受け入れ、外国人に対する観光宣伝を実施しています。

まず、需要予測シミュレーションに基づきまして、輸送力の増加を行っています。さらに、日韓の大量の移動に対応できるように、プレクリアランスという形で入国手続の簡素化を行います。また複合型のICカードの活用も行います。

割引運賃に関しては、先ほどは鉄道、航空といった交通機関を御紹介しましたが、ワールドカップ期間中においては、文部科学省の所管ですが、国立博物館等においても、外国人旅行者に対して入場料を減免する措置が講じられることになっています。

さらに(7)ですが、成田空港においてITを活用した実証実験ということで、インターネットの接続環境が途絶えない、シームレスな接続ができるといった形での整備とか、リアルタイムの交通機関の情報の提供といった、IT技術を全面的に活用した情報提供システムの実証実験をすることとしています。

18ページです。ワールドカップ期間前、期間中を通じ、さらにはワールドカップ期間後も日本の魅力といったものを戦略的に広報していこうということで、先ほど御紹介した、扇大臣が出演して日本の観光魅力を紹介しつつ訪日促進を訴える、訪日促進ビデオを、ワールドカップ開催前から年内を通じて上映することとしています。さらにワールドカップ後ですが、訪日旅行の大きな主力である韓国、中国、米国に対して、テレビ等を活用した訪日旅行促進キャンペーンといったものを展開していくこととしています。

さらに、これもまた後でござんいただきますが、国際観光振興会のホームページを大幅に拡充し、9カ国語での情報発信の提供を行います。

3番目、訪日外国人受け入れ、交流の促進ですが、先ほど申し上げました言葉の壁といったもの、あるいは高コスト観光といったものを是正するための受け入れ体制の整備、国内旅行の費用の低廉化といった施策につきまして、昨年度に引き続き展開をしております。外国人旅行の円滑化という観点からは、本年度から郵便局で韓国のウォンの両替が開始をされています。

19ページには、中段の2から国民旅行促進のための取り組みということで、テロの影響を受けている、航空を利用した国民の旅行需要の回復を行うために、引き続き日米間での観光交流の拡大に取り組んでいくこととしています。

さらに、国民の旅行しやすい環境づくりということで、年次有給休暇を活用したゆとり休暇取得促進のための環境整備を図るということで、さまざまな啓蒙活動、キャンペーンの実施をすることとしています。

20ページの4です。観光地、旅行商品の魅力の向上があります。先ほど申し上げました

地域の観光資源を活用した、それぞれ特色のある地域づくりを応援するために、観光まちづくりプログラムの実施支援事業とか、自然、地域伝統芸能、フィルムコミッションがあります。あるいはまちなみ景観といったもの、そのような観光を生かした魅力ある地域づくりを行うためのさまざまな支援の施策を講じていくということを記述しています。

続いて、21ページの上から2つ目の(10)ですが、沖縄については、この国会で成立した沖縄振興特別措置法に基づいて、観光を中心とする支援措置の充実が行われたので、これを推進していきます。特に、エコツーリズム等の施策を推進していくということを記述しています。

中段、観光関連施設の整備ですが、ハートビル法の改正が現在、国会で審議されていますが、ハートビル法に基づくバリアフリー化推進をホテル、旅館の整備について行なってまいります。

最後、22ページの大きな6、観光に係る安全確保対策ですが、日本人海外旅行の安全確保のために提供している外務省の海外危険情報というものが4月26日に見直しをされました。旅行中の安全確保に関する自己責任の明確化ということですが、従来の数字がひとり歩きするような5段階の危険度を改めて、さらに4段階の文書表記、例えば「十分に注意してください」もそれぞれの現地の情勢に合わせた多彩な書き方をして、国民の方々にきめ細かい情報提供を行うという形で、外務省が海外危険情報を見直しました。

これを踏まえ、国土交通省においても、従来、危険度2以上の数字が出た場合、主催旅行中止を求めている通達を廃止しました。2以降、細かい記述ですが、観光旅行に必要な安全確保対策、鉄道、道路、航空、海上に対する安全確保対策、あるいは防災、災害対策について、昨年度に引き続きまして適切な措置を講じていくことを書いています。

以上が平成13年度の観光の状況及び観光政策の報告です。

もう少しお時間をちょうだいして、先ほど御紹介しました訪日促進ビデオ、これは30秒版で、英語版、韓国語版、中国語版がありますが、この3本をごらんいただこうと思います。モニターの方を御注目いただけますでしょうか。

〔訪日促進ビデオ上映〕

櫻井企画調査室長 今見ていただきましたように、米国向けとアジア向け、ビデオを2種類つくっています。米国向けにつきましては自然、あるいは歌舞伎といった文化をテーマにしていますし、アジア向けについては、特に若い層を中心にしまして、買い物楽しみとか、安い料理ということで回転寿司、体験ということで川下りといったものを紹介し

ています。これは、週 747便、日本企業が運航している国際線について、5月1日から上映しています。

続きまして、もう少しお時間をいただきまして、国際観光振興会が世界に向けた情報発信ということで、年間で1万7,000件を超えるヒット数がありますインターネットホームページについて、最近、デザインを一新したので、簡単に御紹介をさせていただきたいと思います。引き続きごらんいただきます。

JNTO鈴木次長 年間1万7,000件のヒット数ではなく、年間1,700万件です。これまで英語と韓国語、中国語、中国語は繁体字、簡体字ということで、全部で4言語を使って情報を提供していましたが、ここにありますようにフランス語、ドイツ語など6言語をつけ加えて、全部で9カ国語、言語にしますと10言語ということで情報発信を開始いたしました。

これが一番最初のトップページですが、この左の方に浮世絵の画面があり、こちらをクリックすると、このように安藤広重の浮世絵がダウンロードできるという機能もつけ加えてあります。

それでは、英語版のホームページ部分を開いて御説明させていただきます。これが英語版のトップページですが、今までの私どものホームページに比べますと、非常に使い勝手をいいようにしまして、一番上にいろいろなタグを設けまして、これを押すといろいろな情報が即時に得られるという形に改善しています。

例えば「Guide to Japan」を押しますと、ここには日本のいろいろな基本的な情報等が入っていますが、ここにマウスのポインターを持っていくと、どういう情報が中に入っているかというのがすぐ見られるようになっていきます。例えば、奥の方に入っている日本の在外公館、こういった主要国のリストもぱっと探し出せるような形になっています。

それから、次に「Getting Around」ですが、これは交通機関の情報を載せていますが、例えば、日本でも安く回りたいということで、日本の地下鉄がどうなっているか見てみたいというような方は地下鉄のところを見て、東京の地下鉄をクリックすると、このように東京の路線図網がぱっと出てくるような形につくっています。

それから宿泊施設関係は、「Places to Stay」、こちらの方もいろいろなところにリンクするような形になっていまして、「Leading Hotels and Ryokan」のところで、主要なホテルの画面を押すと、このように基本的な説明が出てきて、さらにここから先、それぞれの宿泊施設にリンクするような形につくっています。

それから、次は「Eating Out」ということで、レストラン関係になります。こちらの日

本食がどんなものがあるかといった説明も、ここでぱっと見られるようにつくっています。

それから、日本に来てどんなことをしたらいいか、どんな楽しみがあるかということで、こちらにありますようにいろいろな種類の楽しみ方のリストをつくってありますが、例えばテーマパーク関連をちょっと見てみたいなという、時代村のところをクリックすると、時代村の表示が出てきて、その中の日光江戸村というのはどんなものかなという、日光江戸村の説明がぱっと出てくるという形になっています。

それから、次に「Regional Travel Plans」ですが、ここの部分は国際観光テーマ地区の紹介ページとしています。例えば、関西のところをクリックすると、このように関西テーマ地区の旅行モデルルートが出てまいりまして、ここにクリックがもう1つありますが、これをクリックすると、さらにもっと詳しい説明が出てきます。これから先もいろいろ、もっと詳しい説明がこちらの方にありますが、お時間がないので省略させていただきます。

次に、「Regional Tourist guides」ですが、こちらの方は日本全国の主要な観光地の紹介をしているページですが、この中の1つを紹介させていただきます。例えば、京都のところをクリックすると、京都のページになり、例えば京都の観光地図に、行ってみたいなと思うと、こういうふうに観光地図がぱっと出てきます。この観光地図の中のさらに詳しい部分を見たいと思うと、例えば「Area 3」というところを押すと、このように詳しい観光地図も出てくるというつくりになっています。

時間がないので、次に、先ほど御紹介のありましたワールドカップのサイトをごらんいただこうと思います。こちらの方も同じように10言語表示しています。これをオープンすると、このように各スタジアムの動画が出てまいりますが、この部分はスキップしていただいて結構ですが、皆様にPRカードでお配りしていますが、ここがワールドカップのサイトのトップページになります。これが言語選択のページになっており、このところで同じように10言語でワールドカップ関連の情報を提供しています。ちなみに、また英語の部分で開いてみると、こちらの方は英語のトップ画面ですが、この中の一番最初のところは今リンクしていませんが、ワールドカップの試合のスケジュールとか、FIFAの方に連動して情報提供しています。

次に、開催地の部分ですが、10開催地に関していろいろな情報をここの中で説明しています。例えば札幌をクリックすると、札幌のスタジアムのインフォメーションということで、このようにスタジアムに関する説明が出てきます。

それから、さらに飛んで、同じ札幌の中でもスタジアムのインフォメーションだけでは

なくて、札幌市についてこういった情報が得られるかといいますと、この「City Information」を押すと、札幌の概要が出てきて、さらにまたその周辺の地区も見られるようになっています。例えば、大通り公園をクリックすると、大通り関連のあたりが見られるということで、このようにいろいろな形でワールドカップのサイトの方も、これからワールドカップに来られる方が準備できるように情報提供しています。

どうもありがとうございました。

櫻井企画調査室長 国土交通省からの御説明は以上です。会長、よろしく申し上げます。

室伏会長 どうも広範な御説明をいただきましてありがとうございました。

それでは、ただいまから審議に入らせていただきますが、ただいまいただきました説明を参考に、委員の皆さんの方からいろいろ御意見やら御質問等を出していただきたいと思いますが、どうぞ御発言をお願いいたします。どなたからでも結構ですので宜しくお願いします

石月委員 日本観光協会の石月ですが、3点ほどお願いを申し上げたいと思います。

この白書については大変よく書かれていまして、特段の御意見を申し上げるものはありませんが、第1弾は陳情みたいな話になりますが、最近、石原知事が就任されてから東京都の観光は非常に強化されています。例えばフィルムコミッションをつくったり、また、観光担当の行政部局を強化したり、大変結構なことだと思います。

御案内のように、日本に来る外国人というのは、ほとんど95%が東京、大阪、愛知といったような大都市圏地域に来るのであって、それから地方に出ていくと思います。我々の経験に照らしても、パリやロンドンに行かないで、初めからフランスの田舎やイギリスの田舎へ行くことはないのであって、その意味で大都市観光というのは非常に大事です。

そういう観点から東京といったものを考えた場合に、パリやロンドン、ニューヨークその他に比べて東京の魅力というのは非常に落ちると思います。したがって、石原さんに大いに頑張っていただきたいと思うのですが、この問題の取り上げ方としては、東京都だけの問題ではないのではないかと私は考えているわけです。

例えば、東京への通勤人口というのは、大体1日330万くらいあると思います。このように大量の人口が長時間通ってくるような都市というのは世界中にないと思います。だから、例えば東京でオペラを見るとか音楽会に行くといっても、かなりの覚悟をして、早く夕飯を食べて見て、それで夜遅く帰るということで、日本人自体が余り東京を楽しめないのではないかと思います。今、幸いにも経済財政諮問会議で大都市の投資を強化するとい

っていますから、交通のみならず東京の高層化なり、もう少し大都市住民が時間的余裕を持って生活を楽しめるような都市をひとつぜひつくっていただきたいと思います。これが東京の観光発展の非常に大事なところではないかなと思っています。

同時に、今、国際観光振興会の情報がいろいろ提示されましたが、私どものところで全国の県からいただきました、全国各地の観光情報16万件をデジタル化して、旅相談という形でインターネットで公開しています。私どものところは1カ月約2,800万件ぐらいのアクセスがあるという、大変利用度の高いものです。東京を含めいろいろな地域を紹介していますが、こういったものを作成するための費用として、広域観光振興事業で各県から拠出金等いただいています。東京都さんにはさっぱり御協力をいただけませんが、東京都は首都としての矜持をもって、地方に客を流すという観点も持っていただきたいと思っています。室伏会長も東京商工会議所の副会長ですので、ひとつよろしくお願ひしたいと思っています。

それから2番目に、日本のインバウンドをふやす際の問題としては、日本の観光魅力自体がなくなってきたことがあげられます。日本というと経済の国であり、物価が高いというイメージがまず欧米人の頭の中にはひらめいてくるのであって、恐らく米国から来る観光客の大部分というのはビジネス客であって観光客ではないので、そういう意味で、本来の意味の観光客をもっとふやすためには、21世紀型の日本の観光魅力というものを、これからクリエイティブしていく必要があるのではないかと思います。

それで私、かねがね申していますのは、日本全国至るところにある温泉文化というものを、もう少し日本文化として世界に売り出せないか。パンツやスイミングスーツを着て温泉に入るのではなくて、素っ裸で入って、露天風呂のリラクゼーションの味というものを世界に知らしめる、そういったことでひとつ大いに米国あたりにPRしてほしいということで、向山会長にかねがね私お願いしているところです。これも一旅館業界ではなかなかできないのであって、政府で指導していただいて、外国人が1週間ぐらい滞在してもあきないような食事のバラエティとかエンターテイメントとか、そういったものを提供していったら、新しい観光魅力をつくっていただくことが非常に大事だと、考えていますので、これもこの際、お願ひしたいと思っています。

それと温泉に限らないわけですが、フジヤマ、ゲイシャにかわる、日本のイメージとうか、異文化を体験した気分になるような何かをつくっていただきたいと思っています。

3番目として、観光の振興に政府の役割はかなり大きいと思います。一国二制度という

ことは難しいかもしれませんが、イギリスの場合には、マン島とかジャージー島などは、通関はありませんし、税金もかかりません。したがって、年寄りがみんな集まる地域があります。例えば、対馬が過疎化で非常に今悩んでいます、例えば対馬に限って韓国からの人をノービザにしたら、対馬の観光振興というのはたちまちに果たせるのではないかと、私がかねがね考えていますので、そうしたことも含めて、ひとつ政府として宜しく願います。

それからもう1つ、これから東南アジアの人がどんどん入ってくると、今まで私の耳に入ってきたのは、地方空港におけるC I Qの問題です。特に、アジアから来る人に対するC I Qが非常に厳しいと聞いています。成田やそういうところはいいようですが、そのために、初めに予定していた旅行のスケジュールが狂うといったことが多々あるようですので、ひとつその辺もインバウンド増大のために考えていかなければならぬのではないかと思います。

さらには、韓国との提携というのは非常にいいことだと思いますが、いろいろ話を聞くと、クルーズや飛行機でタイや中国の万里の長城あたりまでは行くけど、日本は経済の国で物価が高いからということであつたという話を耳にします。そういう意味で、ひとつぜひ相互協力というのをタイとか中国あたりまで広めていただければと思います。

以上3つを申し上げまして、私のお願いをさせていただきます。

室伏会長 どうもありがとうございました。ほかの委員の方、いかがでしょうか。

阿比留委員 本日はどうもありがとうございます。いろいろ御説明をいただいて、随分進んだな、進んでいるなという感じを端的にいたしております。本当に御苦労さまです。

幾つか申し上げたいと思うのは、平成14年度に講じようとする観光政策の最初のページでも出てきますが、私はトーンが弱いなという感じがします。これは地域づくりということですが、結局問題は何かというと、日本人が誇りと自信を失って、地域の人が自分のところはこんないいところだと思わない、思っていない、宣伝しないといったところが私は非常に大きな問題だろうと思います。観光の振興ということは、とりもなおさず日本の再生だという意味で、これは国だけがやってたんじゃだめ、地方自治体がやってたんじゃだめ、企業・産業の方がやってたんじゃだめであつて地域の住民、国民1人ずつが誇りと自信を持って「日本はこんないいところよ、来てちょうだい」ということをやらなければ、決して私は盛んにならないと思っています。

そういった意味において、地域住民だけではなく、国民全体がそういう方向に向いて、

それも標語としても「ゆとりのあるところ」なんていう言葉はちょっととろいなという感じがします。「観光」という言葉は、私も数年前から勉強しましたが、光を見るということだそうです。幸せなところがあるから人が集まって、幸せになって帰っていく、それを見てその地域の人が喜ぶということが本来の意味ですから、「幸せになりたかったら日本においでよ」くらい言ってもいいと思います。

例えば、日本は長寿の国なので、長寿になりたかったら日本へ来てちょうだいよというのもあります。その中に、先ほどの石月さんのお話にあった温泉も1つの文化として楽しんでもらうということを含めてもいいと思います。沖縄もそうですが、沖縄は日本で一番長寿の県ですので、沖縄へ行って私は申し上げましたが例えば、「長く生きたかったらいらっしゃいよ」とか「あなたまだ来ていないの」というくらいもっと端的な言葉で、何となくゆとりのあるという感じではなく、「幸せになりたかったら日本にいらっしゃいよ」という感覚でやっていただいたらいいのではないかなと思います。

結局、日本国民、県民、市民、町村民の誇り、自信を回復するための1つの方策で糾合していったらいいのではないか、そういったことが非常に調子いい言葉で書いてありますが、パンチがないなと思います。もっと本当にそうなるうじゃないのということがあらゆる面で、観光産業ばかりじゃなくて、ほかのこともみんなそうだと思いますが、そういうところが足りないなというのと、1人1人に参加してもらうのはいろいろ出ているわけですが、今、日本の一番弱いところは、それぞれが人にみんな押しつけて自分は参加しない、もちろん参加している部分もありますが、教育にしてもしかり、その後のことにしてもしかり、したがって、この観光振興というのは、こういうものについてもっと参加をさせるための1つのいいツールだと私は思っています。

それから、先ほど副大臣のお話の中で、国土交通省を統合したメリットを生かしたいということでは、私は足りないのではないかなと思います。観光については各省を統括して、もっとやっていただきたいと思います。これは文科省との間のことだと思いますが、これから地域の方が自分で自信と誇りを持つためには、地域の小学校、中学校、高等学校、大学で、もっともっと地域のことを教え込んである程度、せっかくここで学んでいるのだから、地域のことはほかのだれよりも知っていますよというふうなことも推進する必要があると思います。そのほか経産省にしても、外務省もしかりですが、少なくとも私が素人目で見ると、外務省の在外公館の方が本当に「日本に来てほしい」と声を高らかにやっているとは思いません。

端的に言うと、業界の手先なんかやってられるかというお気持ちがないのかどうか。そういったことを含めて、国土交通省の方でいろいろな各省と観光問題をおやりになるときにも民間を少しその中に参入させていただいて、端なお話し合いをするという場もあっていいんじゃないかなと思います。お役所の中で難しいところがあると思いますが、そういうところは民間に言わせるということも、私はあり得るのではないかなと思っていました、まだまだ国土交通省さんも全体的に消極的だなというような、失礼ですが、そんな感じがしています。

実は私、3月23日から初めて船に乗ってカリブ海に10日間くらい行ってきましたが、3,000人の乗客がいて、その内日本人5人ということで、何が言いたいのかというと観光客が戻ってこないのは日本人だけだということです。ほかの国はみんな戻ってきているということでして、かつてはマイアミビーチなどを歩きますと、よく旗持ってみんなやっていたのですが、そんなのは何も見えませんね。日本人がいないという状況を見ると、もう少しこういった情勢、たまたま4月26日に危険度の変更があったということですが、情報が遅きに失しているな、みっともないなという感じがします。ヨーロッパからも、アフリカからも、南米からもみんな来ているわけなのに、日本人だけが5人というような状態は、これはちょっと対応が遅いのではないかなという感じがしまして、もう少しその辺の情勢をよく把握してやっていただいたらいかがなものか、こういうふうに思っておりまして、御参考にさせていただきたいと思います。

先ほどからビザのお話も出ていますが、ビザがないというのが安全上、非常に問題があることははっきりしています。しかし、ユーロでもあれだけのところがビザなしでやっているわけですから、多少のことがあっても、あえてそれに挑戦しなければいかんというような感じがして、今度のサッカーを機にそういうこともやるということについては、大変結構な話ではないかなと思います。

感想めいたことで非常に恐縮なのですが、しかし大変に御努力いただいているというお気持ちのほどはよくわかりました。なお一層お願いを申し上げたいと思います。

以上です。

室伏会長 どうもありがとうございました。

右の方から委員が順番に発言されておられるようなので、私も2～3発言させていただきたいと思います。

まず第1点は、今回、日本への観光客を招致するための1つのモメントとして、今度の

日韓共催のW杯開催をとらえて、いろいろなことをしてみたいという御計画を先ほどお伺いいたしまして、大変結構だと思いました。特に、私どももいろいろ外国人と接触しますと、どうして日本へ来ないのかということを知ると、ほとんどの方がおっしゃるのは、仕事の場合は別だけれども、観光では日本は遠いと言います。それから物価が高いと。もう一つは、英語の表示といったものがなくて、なかなか言葉が通じなくてわからないということをする人が非常に多くて、そういった面で日本がもっと努力したら、日本への観光客がふえるのではないかとということをおっしゃる人が非常に多いです。

今回、いろいろなことを試されるということで、非接触型の多機能、多目的な複合カードとか、あるいは言語トラブル解消のためのジャパン・トラベルサービスの実証実験とか、入国手続を迅速化するためのプレクリアランスですね、これなんかも非常にいいと思います。カナダなんか、米国のイミグレーションが来て、米国通関をそのままずっと入れるようになっていますし、ああいうような形でやれば、日韓の関係も非常によくなるし、ほかの国との交流も盛んになるのではないかと思います。それから、Eエアポート構想とか、あるいは鉄道や航空機に対する特別レートの適用ということは非常に結構だと思いますので、そういうことにぜひトライしていただいて、その結果をぜひレビューしていただきたいと思います。

先ほども御意見が出ていましたが、例えば日本の、特に地域の活性化というのはこれからの日本にとって非常に重要なものですが、地域の皆さんも一緒になって魅力ある地域まちづくりをやっていただけたらと思います。それがまた外国人にも評価されるという形で、例えば今回は、北海道の札幌からいろいろな地方の都市でサッカーが開催されるわけですから、そういった地域との共同でのまちづくり、あるいは観光地としての魅力づくりをやっていただく非常にいいチャンスではないかと思います。ぜひそういった結果をレビューしていただいて、そしてまた来年、それに基づいてまた改善したりフォローしていくということをお願いしたいと思います。

2つ目はハードの問題ですが、私は先週クアラルンプールへ行って、その前は香港にも行って見たのですが、啓徳のエアポートなんていうのは、全額日本のODAでつくったエアポートだと思いますが、すばらしいエアポートができていますし、香港でも、今度のナンタオ島のエアポートは近代的なすばらしいエアポートだと思います。成田へ帰ってみるとやっぱり、成田も今度第2滑走路、中距離のができまして、そのためにお客さんが非常にふえたそうですけれども、逆にまた荷物を下ろしたりする、お客さんに手渡すところの

施設が増強されていないもので非常に混んでいましたけれども、そういうようなことはありますが、やっぱり成田は非常に見劣りしますね。

ですから、成田空港のさらなる整備、羽田空港のさらなる活用ですね。特に日米の財界人の集まりで必ずアメリカから出る問題は、プライベートプレーンをもっと活用できるように自由化してほしいとか、日本の飛行機の乗り入れ代が1機 100万円ぐらいするので何とかしてほしいということをよく言われます。そういったコストを引き下げる努力とか、羽田の拡張なんかもぜひやっていただければと思います。恐らく観光でのチャーター便なんかもそうなれば、もっともっと減ってくるようになると思います。

実は、サンクトペテルブルグにつきまして簡単に御紹介したいのですが、来年の2003年がロシアのサンクトペテルブルグ、前のレニングラードですが、300年祭をやるそうで、ロシアはプーチン大統領を初めとした実行委員会をつくりまして、世界じゅうから関係国に来ていただくという計画があります。

この件につきましては、前にもちょっと御報告させていただきましたが、日本ではどこがということはないのですが、今、三塚さんが議長になってやっている、日本ロシア協会というところが中心になって受け入れをやっておられるようでございますが、外務省のほか、いろいろ皆さんに協力しておられまして、例えば能から狂言、劇団四季とか、柔道、剣道、相撲、生け花、池坊、そういったあらゆる文化関係の方々も向こうへ行って紹介するというので、そういった意味での日露の観光を中心とした交流が恐らく来年1月から始まると思います。そういう行事も予定されておりますので、そんなことを通じて、私どももまたいろいろ協力したいと思っておりますが、ぜひ国土交通省におかれても御協力いただければと思います。

それでは、次の委員、堤さんいかがでございますでしょうか。

堤委員 この第1章で訪日促進のための戦略的取り組みというのがありますが、これはこのワールドカップの開催中にテストケースとしてやるということで、それが成功したとき、引き続き行うということをつけ加えていただいたら、よりよくなるのではないかと思います。まずヨーロッパ、米国の人たちが日本に来る数が少ないというのは、これは距離が離れていますから、フランス人とイギリス人が交流する数と比較する方がむちゃで、数字が出っこないんですね。

もう1つ数字が出やすいのは近隣国ですね。ところが、この近隣国というのは考えられないぐらい経済格差がありますし、貨幣価値が違います。ですから、中国人の中で日本に

来られるような裕福な者が何億人いるかといったら、それはいないですから、裕福な人間で見たら非常に少なくなってしまうんですね。

ですけども、ヨーロッパが遠い、近隣諸国にお金がないということを今、我々がじたばたしても、急に解決する問題ではないですから、せめて入国を楽にする。要するに日本に行くというのは大変な負担なわけで、それで半日つぶされますから、仮に出国でそういう手続に半日つぶされるとすれば、自分のお金の中で、早目に空港に行ってそこでつぶしますから、非常に大事な外貨を使って日本に来てからはずっと入れて、フルに観光に入れたら、半日でも同じ費用でふえるわけですから、私はかなり効果があると思います。

日韓のときにテストしたのを、近隣諸国という表現にしますが、近隣諸国に対してそれだけの数を見てもらおうということで、向こうへ人を派遣して、しかもそれには現地の人をかなり雇うことになりますから、前にハワイのキャンペーンのときそれをやったんですね。ハワイに日本人が来ないといつて、向こうから知事先頭でキャンペーンしたわけですが、あなたたちが来てくれと言っても我々が行ったときどんな態度だと言いたいのです。入国のとき、税関の人が日本語しゃべってくれないじゃないか。私なんか大学で英語やっていますけれども、しゃべるのは苦手ですから。なかなかあそこへ行って早口にアメリカ語で言われたんじゃ、悪いことをしているみたいですね。

ですから、そこらあたりで日本人がいてくれる、逆に日本に通関の機関を持ってきて、日本で全部済ますようにしてくれたら、もっとハワイに行きますよという話をしました。これは具体的にやろうということなので、今、米国との間では役所ベースで進んでいるとは聞いていますが、近隣諸国は割にやりやすいと思います。これは大きいテーマとして、「成功した場合は引き続いてこれを促進しよう」というのを1行入れてもらおうと、後でやりいいと思います。よろしくお願いします。

青山委員 今回の白書につきましては、大変わかりやすく読ませていただきまして、タイトルなども共感できる書きぶりで、大変わかりやすく仕上がっていると思いました。今までは、各省庁の対応策ごとに並んでいるような感じもしましたが、ようやく観光という切り口で全体を取りまとめることができたのだなという感じを受けました。

ワールドカップサッカーでさまざまな取り組みをされて、事前のPRもされているんでしょうけれども、勝負は、やはりいらっしゃった外国人の方々が日本に来て、本当にリピーターとなってくださるかどうかということだろうと思いますので、国も行政も、旅行者の方たちもそうですが、私たち国民も含めて外国の方たちを心から受け入れることを

考えていかなくちゃいけないなと思います。

東京のタクシーなども外国の方たちに不慣れで、言葉の不自由な運転手さんのためにカードをつくって取り組まれているようにも伺っていますので、これからも本当に力を合わせて外国の方を受け入れて、まさにリピーターになっていただくようにしていきたいなと感じました。

それと、私はふだん従来の観光というか旅行ではなくて、新しい旅先を見つけて、日本の再発見につながるようなことを自分でも実践しているし、多くの人にも紹介しているのですが、こういう観光の流れというのは非常にうれしく、心強く思いました。そういう新しい旅先は、どちらかという観光という視点ではなくて、まさに地域づくりで、20年、30年かけて地域の人たちが地道に努力をされてきたところなんですね。これは本当に観光というベースになかったので、一般の旅人たちには情報も少なかったし、交通にしても、いろいろな施設にしても、十分どころがなかったものですから、こういう形で全体として地域を支えるような方向にいていただくのは、本当に私も願っています。

一方で、そういう地域に行きますと、観光とかそういう人たちと一緒にあって、地域を發展させてくださいねという言い方をすると、「観光」という言葉に対して非常にまだ抵抗感を覚えている地域が多いんですね。「観光」というと、何となく商業的になっちゃうとか、荒らされちゃうとか、そういう先入観をまだお持ちの地域があるように思います。

でも、今日も副大臣の冒頭のごあいさつにもありましたように、今や観光というのは、従来にあったような観光とは違った形になっているのですが、私自身も「観光地」と言ってしまったときに、まだ従来のニュアンスがあるんじゃないのかなと、コメントをつけることもありますので、ぜひ何かの折に、21世紀の観光というのはこういう形なんだよという、皆様のお言葉の中に入れていようなニュアンスを改めて示していただけるとありがたいなというのと同時に、そういった地域を観光と結びつけたときに、その地域を尊重するような精神的なものというのか、倫理的なものというのか、哲学というのか、そういうものもあわせてこれから大事にしていくんだということを、何かお示しいただけたら、よりありがたいのかなと感じました。

向山委員 特に意見ということではありませんが、今回の白書では従来のものと違いまして、どうしてインバウンドが進まないかという原因のところをかなり踏み込んで整理し、まとめていただいたと思っております、大変結構な内容でまとめていただけたなと思っております。

それで、ここにも出ていますように、いろいろな原因があるのですが、私は正直言います。今まで日本では、外国人を迎えるという意識がなかったと思います。ごく一部の、特定のホテルですとか、特定の航空会社ですとか、そういうところにはありましたが、地域全体、あるいは中小事業者を含めた商店街全体というところ、あるいは先ほどお話がありましたようなタクシーのドライバーというところまで含めては、まだそういう意識がなかったと思うんですね。

ですから、幾ら一般的な、抽象的な観光宣伝をやりましても、現場の方で現実に外国人を迎えたい、それから迎えるためのセールス活動をやるといことがなければ、現実の成果につながっていかないわけですし、今、そういう意味での転換期にあるのではないかなと思っています。ようやく地域ぐるみでそういう取り組みを始めてくださるところが出てまいりましたので、そういう流れをぜひ助長していただきたい、そういう意味でみんな力を合わせていきたいかなと思っています。

そういうことになりますと、もちろん全体的な国民運動も大事ですが、やはり地域的な取り組みが大事なわけですし、商店街、あるいはそれぞれの都市の商工会議所で取り組んでいただくことが必要になってくるんじゃないかなと思います。

私どももできるだけ安い宿泊施設を紹介したいと考えまして、低廉な宿泊施設のリストをつくるということをやりますと、最初は「入れてください」というところがあるんですが、実際に電話がかかってくると全部断ってしまうのが現実でありまして、そういう意味で、地域ぐるみで外国人を呼ぶという体制をつくっていくことが必要です。それにはリストもありますし、マップもありますし、案内書、標識の問題、接客の問題、いろいろあると思いますが、地域ぐるみで取り組んでいくことがこれからますます大事になってくるのではないかなと思っています。

室伏会長 ほかの委員の皆さん、いかがでしょうか。何か追加のコメント、あるいは感想でも結構です。

佐藤副大臣 ちょっと恐縮ですけれども、私、次の会議がありますので失礼させていただきます。その前に一言、皆さんのお話をお聞きしまして、ちょっとお話をさせていただきたいと思います。

先ほど青山さんから「観光」という言葉にまだ非常に抵抗感があるというご発言がありましたが、まさにそうでありまして、私たちは「観光」という言葉を別に置きかえようと思って、今までいろいろなことを研究してみました。なかなかいい言葉がないのですが、

どうも「観光」というのはただの遊びだというイメージがあります。日本人は遊ぶということに対してまだ抵抗がある面がありますから、だから産業化しない1つの問題点がそこにあると思っています。その辺を私たちは問題点として持っておりまして、分科会でぜひともその辺の御議論をいただきたいなと思っています。私どもも真剣になって考えていきたいと思っています。

それから、堤委員の税関や通関なんかも、まさにそのとおりだと思いますから、ワールドカップをやってみて、その後、引き続いてそういうことをやっていけるように検討させていただきたいと思っています。

それから、外国人にとって遠いイメージだというお話が委員長からありましたが、まさにそうでした、非常に遠いイメージがあります。ましてや日本というのは、日本という国よりもアジアという見方で外国人は見ている面があるものですから、それだけ日本の個性的な魅力というものをつくり上げることが重要です。ただ宣伝をするばかりじゃなくて、つくり上げることが大切だと思いますから、そういうことで努力をしていきたいと思っています。

それから、地域の人たちが自分の住んでいるところに自信と誇りを持つということも重要です。そのために地域のらしさづくり、アイデンティティーづくりというものをしっかりやっていこうと、それが魅力ある観光地をつくることだと思います。将来、町村合併などが進んでいきまして、だんだん道州制のような形になって、地域の魅力の競争になっていくと思います。地域の魅力の競争でもって、日本の活力を生み出していくことになっていくと思いますから、そういうことの将来も見ながら、この観光というものに取り組んでいきたいと思っています。

それから、大都市観光ですが、今、都市再生をやっていますが、都市再生の中には大都市の魅力をつくることがあります。どうも東京や大阪なんか見ても、観光客が歩きたいなというまちなみじゃないということだと思ふんです。八重洲のビル開発を新しくやっていきますが、大分ビルの下なんかウインドーショッピングできるような、非常にいいまちなみになってきましたが、やはり都市観光というのは美しいまちなみ、美しい地域づくりが大事だと思いますから、パリへ行ったと同じように、東京も本当に行ってみたい、美しい、大阪、名古屋、そういうものをつくり上げようと思います。それも今度の都市再生の中に組み込んでいます。

それから、地域の人たちが地域みんなで心を合わせてやるということが、湯布院のよう

なものをつくり上げていくのだと思います。安売りの観光じゃなくて、魅力あるものをつくり上げて高い商品として売っていくということがこれから大切だと思いますから、そういうことも真剣になって、今取り組んでいるところです。

実は、各省庁の横の連携をとるために、副大臣会議において、観光というものを全員の副大臣が参加してプロジェクトチームをつくっています。そして、それぞれ各省庁でもって、魅力ある日本の観光産業をつくるために、問題点になっているところを次の機会までにみんなで出してくることにしています。そして、各省庁みんなで日本の観光というものに取り組んでいこうということで、今やっている最中でありますから、近々そういうものの結論も出てくると思いますし、うちの役所の中では、先ほど申し上げました省庁のメリットを生かせるようにプロジェクトチームをつくって、そして、今までは旧運輸省で観光をやっていましたが、そこに旧建設省なんかも加わって地域づくりを、今までやった観光とあわせながら、新しい観光というものをつくり上げていく、産業化していくということでやってまいりたいと思っています。

ひとついろいろと御意見をお願いいたしたいと思います。失礼しますけれども、どうぞよろしくお願いいたします。

室伏会長 副大臣、お忙しいところどうもありがとうございました。

鷲頭観光部長 今、副大臣の方からお答え申し上げましたが、私の方から個別にお話をさせていただきたいと思います。

まず、石月委員がおっしゃられました都市観光と、日本に観光魅力がないから、温泉なども中心に魅力づくりをしるというお話でありまして、この白書の中にも、そういう意味では観光地づくりの話が出ていまして、端的に申しますと、海外の観光地と日本の観光地が競争した結果、日本の観光地が負けているということで、海外旅行の方はふえるんだけど、国内観光は減ってしまうという点につきましては、都市観光のみならず、石月委員の御指摘のとおりでして、それをこの白書で13年、来年もやろうとしていますのは、観光まちづくりということで、各地域の特性、我々国がこうしなさいということではなくて地域の発意、先ほどからいろいろお話が出ていますが、地域住民や地域の人たちの発意で、そのまちに一番適した観光地づくりをするということでやっていきたいと思っていまして、私どももそういう意味では、平成14年度予算から「観光まちづくりプログラム」という予算もとりました御支援させていただくことにしています。

あと、一国二制度の話につきましては、先ほど成立いたしました沖縄新法の中で、そう

いう意味では観光についても特別な地位が認められているということになっていまして、ほかにどういう地域があるかですが、そういう方向での着手というのはされていると思っています。

それから、阿比留委員の御指摘の、日本人が自信と誇りを失っておってトーンが弱いという御指摘につきましては、もうちょっと強いトーンで修文させていただきまして、また御相談をさせていただいて、白書の中で直していきたいと思っています。

それから、省庁統合のメリットが国土交通省だけじゃなくて、ほかの省も国土交通省で束ねてやっていきなさいというお話でございまして、一番具体的な例は、先ほど佐藤副大臣が申し上げたとおり、副大臣レベルで協力していきましょうということです。それを束ねているのがうちの副大臣ですので、そういう意味で着手はしていますし、今回のワールドカップにつきましても、文部科学省が博物館の割引をすとか、あるいは外務省が持っております宣伝テープを各ホテルの宣伝チャンネルを通じて流すというような取り組みを我々が旗を振りながらやっていますので、遅々ではございますが、こういう契機にできるだけ我々の意思を伝えながら、ほかの省の施策といろいろと融合していきたいなと考えています。

それから、カリブクルーズで 3,000人のうち 5人しかいなかったという点につきましては、先日資料をお送りさせていただきましたが、ほかの国に比べましても、日本人というのは大変ナーバスというのですか、ああいうのがあると引っ込んだり、行かないこととなるような国民だというのはデータとしても出ていまして、我々がそういうときにできるやり方としては、例えば沖縄のときにやりましたように、大臣が沖縄に入る、我々も行く、旅行会社も行ってもらって、安全でいいところだということをアピールするというやり方でやっていくしかないのかなと思っています。そういうやり方で沖縄の方は幸い戻ってまいりましたし、ニューヨークにつきましても、私どもの管政務官に行っていただくことにしていますが、5月24日に 1,000人でニューヨークを訪れまして、その安全性というものを、もう大丈夫なんだということをムードとして盛り上げるということにしたいなと思っています。

それから、ビザやプレクリアランスの話は、後でまとめてお話しさせていただきたいと思えます。

それから、室伏会長がおっしゃっている、今、ワールドカップでいろいろ取り組みをしていて、その結果をレビューしろというお話ですが、それは全くおっしゃるとおりでして、

多分、そこは堤委員がおっしゃられたプレクリアランスについて、よかったら引き続きやるべきだという御意見と全く機を一にするものだと思っていまして、我々プレクリアランスに限らず、いろいろな割引運賃だとか、成功したものというのは引き続き恒久的にやりたいと思っていまして、どういう書き方にするかはともかく、文章の中に1行入れさせていただきますので、また後ほど会長などと御相談をさせていただきたいと思えます。

ということで、また来年以降、今回のワールドカップでの取り組みでいろいろやりました点につきまして、改善あるいはよかったというレビューをしていきたいと思っています。

それからハードの関係で、成田空港のハンドリング施設の問題だとか、羽田の着陸場のお話とか、羽田の次期滑走路の話とか、いろいろありますが、観光部という観点からは、まさに私ども会長と同じ立場でして、航空当局などにお話をつないでプレッシャーをかけていきたいと思っています。

それから、サンクトペテルブルグのお話につきましては、先日もちょっとお話し申し上げましたが、私どももできることは御協力をさせていただきたいし、旅行業界、エアライン、いろいろとあると思えますが、もうちょっと具体的に相談をさせていただいて、御協力をさせていただきたいと思っています。

それから、プレクリアランスにつきましては、先ほど申し上げましたとおり、ちょっと追加させていただきます。

それから、青山委員がおっしゃっている、「観光」という言葉に抵抗感が多いというのは、先ほど副大臣もおっしゃられましたとおり、我々こういう仕事をしていまして、別に観光が遊びだなんて思っていませんけれども、地方ではまだまだそういう意識があるところもありまして、それは観光の分野だけではなくて、例えば学校を休んで家族で遊びに行くという話とか、職場で有給休暇をとるということに関しても、大変コンサバティブなところが随分ありまして、地域での観光という言葉の抵抗感だけではなく、そもそも休んで観光で癒しに行くということに対する意識改革というのですか、そういうことを中心に我々は取り組んでいきたいなと思っています。

そういう意味では向山委員が御指摘になりました外国人を呼ぶという観点での、言葉では言うけれども、実際そうならないような点につきましても、同じような取り組みをしていきたいなと思っています。

御指摘の点、我々として全部答えたつもりですが、観光白書の修文をして、入れるものは入れさせていただきますし、それ以外の政策につきましても、今までいただいた御意見

を踏まえまして、また施策に反映させていきたいと思っています。

どうもありがとうございました。

石月委員 私ばかりしゃべって申しわけないのですが、さっき阿比留さんがカリブ海のクルーズの話を出されたので、お願いしようと思って忘れていたのですが、この審議会は国土交通省の一番重要な審議会ですので、恐らくほかの委員会なんかで言われているのですが、日本の場合は、クルーズの中でばくちができないんですね。ばくちをやりますともうかるものですから、クルーズの単価が下げられると思います。私もカリブ海でもいろいろ乗ってみましたが、ともかく自分の国の言葉で船に乗って、みそ汁やうどんをたべてクルーズができるということは、私は非常にハッピーなことだと思います。

特に、我々のように高度成長時代、いろいろ働いてきた人間は、これからひとつクルーズを安くしてもらうためにも、近頃ようやく旅行業者もクルーズを少し取り上げてきましたので、この辺はひとつ部長の意にとめていただきまして、何とかクルーズの中でのかくちをやるようお願いしたい。これはある程度の金を持った人が乗るわけですから、これによって家庭破壊とか、そういう恐れも私はないと思いますので、ぜひこれはお願いをいたしたいと思います。

それからもう一つ、さっきから「観光」という話が出ていますが、私、ロートルとしてちょっと学のあるところを紹介いたしますと、大体今、日本では、易経で国の光を見るとか、何かもっともらしいことを言っていますが、これはもともと1930年（昭和5年）に鉄道省に国際観光局ができたときに初めて膾炙された言葉であって、その当時の鉄道省の本を読んでみますと、日本の外貨不足が経済発展の支障になるということでした。ふやすには何が必要か。それはまず移民の送金であり、次は港湾の収支であるといえます。しかし、移民の送金も港湾の収支もなかなかふやせないから、観光で人をふやそうということです。したがって、大蔵省資金局の資金をやって、いいホテルをつくって人を呼ぼうという話から出ていますから、もともと観光という意味はインバウンドの話なので、国内でその辺を観光するという使い方じゃなくて、あれはやっぱり漫遊とか物見遊山という言葉だったと思います。

私がかねがね、物見遊山というか、遊びで何が悪いのだと思っています。遊びこそ一番人生の目的じゃないかと思っているものですから、阿比留さんがおっしゃった言葉の端を推測しますと、恐らく観光産業というのは幸福な時間を配る産業じゃないかという御趣旨だと思うんです。私はそういう意味で、何かいい言葉がないかと。中国はつい最近まで「旅

遊局」と言っていたんですね。「観光」という言葉を使っていなかったわけです。最近では日本との関係で「中国観光局」と書いてありますが、何かいいお言葉があれば、ぜひ教えていただければと思います。

室伏会長 どうもありがとうございました。委員の皆さんの御意見もほぼ出尽くしたように思いますので、この辺でお開きにしたいと思います。

諮問に対するこれまでの御審議を承っていますと、いろいろ御意見あるいは御指摘もございましたが、大筋におきましては、今回の案に対しまして御賛同であると拝察させていただきます。委員の皆様のご貴重な御意見につきましては、今後、政府において十分に配慮して政策の実行に当たっていただくように希望いたしまして、細かい字句の修正等につきましては、私に御一任いただくことにしまして、諮問に対しましては妥当である旨の答申を行いたいと思いますが、皆様方がいかがでございましょうか。

〔「異議なし」の声あり〕

室伏会長 どうもありがとうございます。御異議ないようですから、そのように答申させていただきます。

最後に何か御意見、あるいは御質問はございますか。

阿比留委員 今、予算をふやすというのは非常に、特に国土交通省さんなんかは、お金の要るものばかり持っていますから難しいと思います。観光というのは本当に国づくりのもとですから、予算の増額について自信を持ってやられたらいいんじゃないかなと思います。たまたま総理が観光という言葉を使った。それで喜んでいるだけではないのではありませんか。それに乗っかっていったらどうだ、こういう感じがします。

室伏会長 それでは、きょうの交通政策審議会観光分科会をこれにて終了したいと存じます。事務局の方から何か御連絡はございますでしょうか。

櫻井企画調査室長 ただいま御審議いただきました観光白書につきましては、5月31日に閣議決定をしまして国会に提出される予定です。

あ い さ つ

櫻井企画調査室長 最後に、国土交通省を代表しまして、伊藤総合政策次長より一言御礼を申し上げたいと思いますので、よろしく願いいたします。

伊藤総合政策次長 総合政策局次長の伊藤です。

本日は、観光白書につきまして熱心に御討議をいただき、御賛同を賜り、まことにありがとうございます。ちょうだいいたしました御意見につきましては、先ほど来、副大臣、観光部長がお答えいたしておりますような方向で対応させていただきたいと考えています。今後とも御支援、御協力よろしく願います。本日は本当にどうもありがとうございました。

室伏会長 どうもありがとうございました。本日は御多忙中にもかかわらず、長時間にわたりまして御審議をいただきまして、まことにありがとうございました。

これをもちまして閉会とさせていただきます。

閉 会